

さくらだより【18号】



2012年3月29日発行

微小血管狭心症という病気を知っていますか？
通常狭心症や心筋梗塞は心臓の血管が狭くなって胸の痛みが生じる病気で男性に多いのですが、この病気は女性の中でも特に更年期に多いことで知られています。更年期の女性の約1割がかかる狭心症というから驚きです。血管を広げる女性ホルモンであるエストロゲンの量が閉経をさかいに減少し心臓の細い血管が収縮しやすくなるのが原因と考えられています。治療も一般の狭心症とは異なりニトログリセリンよりカルシウム拮抗薬が有効とされています。症状は胸などの痛みが長時間続くのが特徴で、命に直接関わらないだけに見過ごされがちですが、生活の質の低下を招きます。何かおかしいなと思ったら早めに循環器内科を受診しましょう。

一般の狭心症と微小血管狭心症の主な相違点

一般の狭心症

- 中高年男性に多い
- 動いている時に胸の痛みが出やすい
- 痛みが続くのは5～10分程度

微小血管狭心症

- 女性(特に更年期)に多い
- 安静時に胸などに痛みを感じる例が多い
- 痛みが持続しやすい。
数時間～1日続くことも
- 血管造影検査などでは異常が見つかりにくい
- ニトログリセリンよりカルシウム拮抗薬が効く例が多い

～新聞から～

厚生労働省が発表した賃金統計によると、2011年のパートを除く一般労働者の平均賃金で男女間の賃金格差が過去最少となりました。医療・福祉分野で活躍する女性の賃金が伸びたため、女性の平均賃金は男性の約7割まで上昇しました。仕事に見合うだけの賃金上がることは当然のことですが、仕事の疲れ等によりホルモンのバランスを乱す女性も増加しています。ストレスを発散しながらいい仕事をしていきましょう。

